

# かわら版

第 4 号  
平成26年10月2日

- 第4号では市町村の取組の様子として、島根県のモデル市町村の視察の様子をご紹介します。
- また、付録として島根県吉賀町および広島県北広島町のご担当者にご記入いただいたワークシートをご紹介します。特に戦略策定の部分が参考になるとと思います。

## 島根県モデル市町村の高知市視察の様子

島根県ではモデル事業参加市町村（3町）のうち2町が「いきいき百歳体操」を実施することとなりました。「実際に、どのような取り組みをされているのか、見てみるのが一番！」ということで、9月17日および18日に「いきいき百歳体操」発祥の地である高知市に現地視察に伺いました。住民の皆さまの活動を目の当たりにして感じたことをご紹介します。

### 島根県

#### ○これまでの経緯

島根県では「地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業」に3つの町が取り組んでいます。また、全市町村の介護予防担当者を対象にした研修会も開催して、地域づくりによる介護予防の必要性や「いきいき百歳体操」の取組みについて理解を深めてきました。

モデル3町のうち津和野町と吉賀町では、これまで介護予防事業で開催してきた体操教室等に、住民の方が自主的に行える分かりやすい体操やエビデンスのある体操が無かったことから、「いきいき百歳体操」に取り組んでいくことになりました。

#### ○なぜ現地視察をしようと思ったのか

「いきいき百歳体操」に取り組んでいくということでスタートしましたが、始める上で一つの大きな問題に直面しました。

それは「錘（バンド）の確保」です。当初、購入も考えましたが、年度途中で町でまとまったお金が工面できないこともあり、高知市の中越広域アドバイザーにご相談をしたところ、高知市のご厚意で今年は錘をお貸しただけのことになり、高知市まで錘を取りに行くことになりました。

そこで、せっかく「いきいき百歳体操」発祥の地に行くのであれば、「どのようにサロンを実施されているのか見てみたい」「市スタッフの方の生の声を聞きたい」といった意見があったことから、「百聞は一見にしかず」ということで、中越広域アドバイザーに再度お願いをして視察の受け入れをしていただきました。

#### ○視察研修当日

1日目は市の担当の方から地域住民に対するプレゼンを実演していただきました。住民をその気にさせるスライドの内容と話術に思わずうなずいてしまう場面が何度もありました。

2日目は2班に分かれて2つのサロン会場を見学させていただきました。モデル事業の説明会等でも「自主的な」というフレーズを幾度も聞いており、実際に高知市で「自主的な」取組みがどのようにされているのか楽しみにしながら会場へ足を運びました。

サロン会場では、自分たちで会場の開錠や施錠、体操に使うイスの出し入れ等役割分担をしながらテキパキと実施されており、また、参加者が「いきいきとした笑顔」で会場に集まって来られていたのが非常に印象的でした。

## ○視察を終えて

今後は、各町でモデル地区を選定、地域住民へのプレゼンを実施、そして体操の実施といった流れとなりますが、特に、今回の視察で初回のプレゼンでいかに住民の方の動機付けに繋げるかが重要であると感じました。

併せて、来年度以降の展開を考えると、高知市のサポーターのように自主的な取組みの中核となる人物の養成にも取り組んでいく必要があると思いました。

視察の最後に参加町職員の方とお話しましたが、具体的な取組みイメージが掴めたようで、「実際に地域住民へのプレゼンを行う際の参考になった」「住民の自主的な活動を見て自信につながった」といった意見があり、今年度後半戦に向け弾みのつく視察研修になりました。

島根県担当者 森山 雄三



見学したサロンの様子

## 津 和 野 町

### ○高知市視察研修感想

高知市内約300ヶ所まで普及している「いきいき百歳体操」が継続的に実施されている理由の一つとして、「住民主体・自主的活動」がキーワードにあると感じたことと、実際サロンに参加させていただいたことで、地域のみなさんがとても元気に、かつ真剣に取り組んでいる様子を拝見できたこと、体操を自ら体験出来たことがとても良い経験になりました。

また、高知市の保健師さんが「いきいき百歳体操の会場に行くと元気をもらう。」と話されていました。実際に、サロンを見学させてもらい地域のみなさんが体操を元気よくされている姿に、元気をいただきました。さらに、サロンの合間にお世話役の方がおもしろおかしく詐欺についての注意呼びかけをされていて、体操だけではなく様々な健康情報や生活情報について声をかけあう場になっていることがとても素晴らしいなと感じました。

津和野町でも様々な介護予防事業を展開していますが、健康の保持・増進、介護予防の推進のためには住民が行政に依存的にならず自分自身の健康のために積極的かつ自主的に取り組むことができるような仕組みづくりが重要であると感じました。今後の地域運動推進員（地域住民ボランティア）サロン活動のさらなる推進を図る参考としていきたいと考えます。

津和野町担当者 高松 遼

## 吉 賀 町

### ○モデル事業に取り組んだ理由

吉賀町では、現在、一次予防事業7種、二次予防事業2種の介護予防教室を展開中ですが、いずれも内容の企画や準備、送迎の手配等まで、すべてスタッフが担っており、参加者にとっては受け身的な教室ばかりとなっています。

今回の制度改正の流れや、当町のマンパワーや社会資源の状況等を考えると、現在のやり方を今後も続けていくことは困難であり、今後は住民の方に主体的に取り組んでいただけるような仕組みづくりの必要性を強く感じています。

しかし、私達スタッフには、これまでに住民主体の活動の立ち上げをした経験がありません。そのため、まずはスタッフの意識改革をし、そして住民運営の集いの場の立ち上げの考え方やそのスキルを学びたいと考え、モデル事業に挑戦することにしました。

## ○視察に行って感じたこと

1日目は、高知市高齢者支援課の理学療法士長谷川さんから、初回介入時の住民説明の内容についてレクチャーを受けました。絶妙な話術に加え、説得力のあるお話と映像につい引き込まれる内容で、住民をその気にさせる技術を学ばせていただきました。

その夜、広域アドバイザーの中越さんのご厚意で設定していただいた懇親会では、モデル事業に手上げはしたものの、本当に自主グループを立ち上げることができるか不安だと相談したところ、『“住民の力を信じる”が大切。そうすれば絶対できるよ』と、高知市スタッフの方々から熱いメッセージをいただきました。どこか住民パワーを信じきれなかった自分に気づかされ、自分自身の考え方を改めていくことの必要性を教えていただいたように思います。

2日目は、『いきいき百歳体操』に取り組んでいるサロンへ参加しました。私が参加したサロンは、男性のお世話人の方を中心に活動しておられ、終始和やかな雰囲気に包まれていました。体操中は、みんなで大きな声で元気よくカウント。特に驚かされたのは、みなさんの表情、そして姿勢がとても良く、急な階段も苦も無く昇降されていたことです。

男性は全員、錘を左右10本ずつ使用し、約4キロの負荷をかけながら体操しているとのこと。錘なしで体操したにも関わらず、筋肉の疲労感を感じた私にとって、本当に衝撃的でした。

また、日頃から近くの喫茶店に集まり、お茶をするのが日課になっているようで、体操以外の楽しみや参加者同士の交流も積極的に持たれているそうです。

実際の活動の場に参加し、参加者の生の声や様子に触れることで、住民の力強いパワーを直に感じ、胸が熱くなりました。そして、我が町でも、こういった集いの場を、住民と一緒に育てていきたい！という決意を固めることができました。

## ○今後どうしていくか

モデル事業では、モデルサロンを指定し、まずは1ヶ所、『いきいき百歳体操』に取り組むグループの立ち上げを目指します。その経験を活かし、将来的には全町へ広げていく予定です。

他の参加自治体の皆さんと比べると、超・スローペースでの事業展開となっており、県担当さんやアドバイザーの皆さんには多大なご心配・ご迷惑をおかけしていますが、住民を信じ、そのやる気を引き出し、住民と共に悩み、汗をかくことを大切にしながら取り組んでいきたいと思ひます。

終わりになりましたが、今回、ご多忙の折にも関わらず、快く視察研修を受け入れていただいた高知市高齢者支援課の皆さん、2ヶ所のサロンの皆さんに、深く感謝いたします。

吉賀町担当者 長嶺 智美



## アドバイザー's view

遠路遥々高知まで、総勢9名でお越しくださり、ありがとうございました。皆さんが来てくださったことで、私達職員も、地域の体操会場の皆さんも元気をいただきました。

7月28日に開催した島根県研修会以降、各自治体で、住民主体による介護予防の展開について検討され、いきいき百歳体操に取り組まれることを決定されるまで、大変なご苦労があったことと思ひます。これまで実施されていた、介護予防事業を振り返り、住民にとって、限りある資源の中で、有効に介護予防に取り組むための熱い議論を想像するだけで、頭の下がる思ひです。

でも安心してください。高知市に視察に行こうと決意された時点で、9割モデル事業は成功です。また、島根県の皆さんの素晴らしいところは、1人ではなく、島根県担当者、津和野町、吉賀町の皆さんが一丸となって視察に來られたことです。これで、99%成功です。

そして、残りの1%は、「自分達自身が、住民の力を信じることができるか」にかかっています。かわら版のコメントを読ませていただいて、この1%も乗り越えることができたと確信しました。

仲間と共に、住民の力を信じて取り組むことができれば、必ず、広がっていくと思ひます。これからが本番！共に頑張りましょう。高知市も一丸となって応援します。

最後に、大切にしている言葉を応援のメッセージとして贈ります。

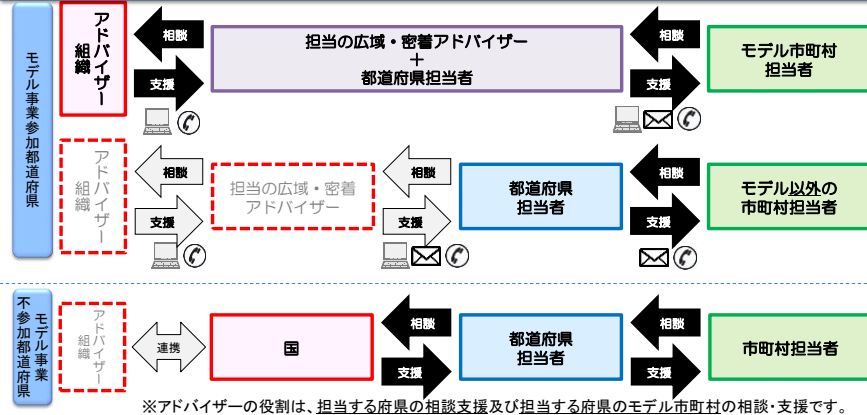
「**情熱は強い風、理性は羅針盤**」＝「皆さんの思ひは住民が動く原動力になる、揺るぎない信念（住民の力を信じて、効果的な手法を提供し、最低限の支援を行うこと）を持ち続けることは、事業に振り回されそうになっても大切な方向を照らしてくれる」

広域アドバイザー 中越 美渚

※視察等に関しては「問い合わせのフロー図」をご参照下さい。

### 地域づくりによる介護予防に関する問い合わせのフロー図

【モデル事業に参加している都道府県に所在する市町村】  
 ○市町村は、視察・実践例等に関する問い合わせがある場合は、基本的に都道府県の担当者に相談して下さい。都道府県の担当者は、必要に応じて担当の広域・密着アドバイザー等と相談しながら市町村を支援して下さい。  
 (モデル市町村は直接担当のアドバイザーとやりとりする事も考えられます。)  
 【モデル事業に参加していない都道府県に所在する市町村】  
 ○市町村は、問い合わせがある場合は、基本的に都道府県の担当者に相談して下さい。都道府県担当者は、必要に応じて国と相談しながら支援して下さい。



## 今月のサイボウズ ～サイボウズ活用術@千葉県～

今月の Best of Cybozu は、関東ブロックの掲示板で議論された「いきいき百歳体操の視察について」です。

千葉県では、研修前後に、サイボウズを活用することで、研修の進め方や通いの場への見学の日程調整等をタイムリーに行っておりました。質疑応答だけでないサイボウズの活用例としてご紹介します。(原文を一部省略・修正しています。)

掲示板は、写真やファイルの添付等も可能です。「住民さんのやる！から第1号の通いの場が立ち上がりました！」のような現状報告など、モデル市町村の皆さまの積極的な活用を願っております。

### 研修前



Q: 先日、研修会の日程を決めさせていただいたところですが、「今後に行うべきことなどの助言等も頂けると助かります」とのコメントをいただきました。皆さんの思いを確認させていただいたうえで、アドバイザーのお力も借り、研修会の進め方や今後の事業の進め方の参考にしたいと思いますので、下記内容の書き込みをお願いします。直接お会いする前なので、書き込みしづらいかもかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。現時点の考えなので、後から変わっても全く問題ありません。気軽な気持ちで率直な御意見をいただければ幸いです。

- ① 具体的に皆様がどんなイメージで事業を進めたいと考えているのか  
 (例) すでに実施している住民主体の事業の活用を検討、全く新しく事業の立ち上げを検討している等
- ② 住民主体の通いの場の運営を検討するのに困っていることなど  
 (例) リーダーとなってくれそうな住民が見つからない、会場の確保が難しいなど
- ③ その他に相談したいことや他の市町の状況を知りたい等なんでも結構です。

2014/06/05 (県担当者)

- **A 町担当者** 2014/06/11 :
  - ①現在すでに活動に取り組んでいる、民生委員・介護予防支援ボランティアを中心に、町で実施していない通いの場としての、高齢者サロン事業の立ち上げを検討しています。(社協では実施予定が今後も一切ないため)
  - ②昨年度末～今年度にかけて、サロン事業を立ち上げたいという住民は何名かおり、私が在籍する包括の方にも協力依頼がきています。しかし、立ち上げたいけど、リーダーにはなりたくない、包括が中心に準備を整えて欲しい...等依存的な意見もあり、初期段階から住民主体の事業として、どのように展開・運営していけばよいか、検討する事が山積みで困っています。
  - ③今回の申込にあたり、他市町でも目的などは異なると思います。この問いにあるような内容を聞かせていただき、参考にさせて頂ければと思います。よろしくお願いします。
- **B 町担当者** 2014/06/11 :
  - ①B 町では、出張教室の開催を平成 25 年度から実践しています。当初は、介護予防推進員が 3 名しかおらず、既存の社協主催による老人クラブ、障害者福祉士会、シルバー人材、ミニデイサービス等集りの中で、出張教室を開催しました。右も左もわからない現状だったため、近隣の市町村から情報を得ながら立ち上げました。
  - ②最初は、町からの呼びかけで出張教室を開催しましたが、推進員には 1～2 年で自主グループ化して住民主体で運営をしてもらいたい旨を伝えて開始しています。まだ、包括がほぼ支援に入っていますが、次年度に向けて後方支援側になる準備をしています。月 1 回の定例会で、推進員、サポーターの情報交換も含め自主グループ化への認識を確認し合っています。
  - ③推進員、サポーター（ボランティア）のマンパワー不足  
住民からの要望も増えつつありますが、推進員、サポーターが少なく、各自治会に自主グループ化の推進を広めていくにまで及びません。  
広報や回覧や口コミ等で広がってきていますが、まだまだです。  
【質問】自主グループ化していくためには、住民の参加の中に、推進員、サポーター以外のリーダーを見つけ、広めていく必要があると考えますが、そのノウハウなどご意見いただけるとありがたいです。
- **A 町担当者** 2014/06/27 :
 

色々取り組んでいて素晴らしい事だと思います。

A 町では、出張教室をボランティアと H24 年度から開始したので、同じ位ですね。とても大変だったので、お気持ちは察します。自主化するためにはリーダーが必要ですよ。A 町も介護予防ボランティアはいます。しかし、当初は 1 期生・2 期生合わせて 50 名程度いたのにも関わらず、現在は 30 名と活動数が減少しています...しかし、残った人達は熱心な方々ばかり！活動していく中で、自信もつき、リーダーらしくなってきました。やはり数を増やさなければ、リーダーも生まれられないような気がします。人数集めは難しいですが、一緒に頑張りましょう...人前で話すのが慣れている、民生委員さん等に協力を得られたらとても頼もしい存在になると思います。

同じような悩みなので、今後研修会等で沢山意見交換ができればと思います。よろしくお願いします。

## 研 修 後

- **県担当者** 2014/08/06 : 先日の研修の際にご希望があった視察の件で御連絡です。いきいき百歳体操を行っている印西市の広域アドバイザーより視察の許可をいただきました。詳細は下記のとおりです。視察を希望される方は、平成 26 年 8 月 12 日（火）までにサイボウズにコメントを入れてください。コメントには①参加人数、②印西市役所までの交通手段、③希望日（第 1 希望、第 2 希望）を入力してください。

## 各府県の研修会・現地支援開催状況

- 9月は、和歌山県（8日）、鹿児島県（9日）、大阪府（10日）で研修会が開催されました。
- また、現地支援も以下の市町で開催されました。  
4日：宇土市、宇城市、錦町（以上熊本県）、29、30日：宿毛市（高知県）

## サイボウズのアクセス状況

- いずれの地域でも掲示板を中心に活発な議論が展開されている様子です。事務局からも事務手続きなどの連絡を随時更新致しますので、引き続きチェックしていただければ幸いです。

<今月のアクセス数>

注) 8月20日正午から9月20日正午までの集計です

東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	全体
830	352	230	373	421	460	2,666

### 10月の各地の予定

- 現地支援
- 【えびの市(宮崎県)】:10月29日
- 【小林市(宮崎県)】:10月30日
- 【都城市(宮崎県)】:10月31日

### 事務局からのお知らせ

- 第3回アドバイザー合同会議のお知らせ  
(10月10日(金)開催)
- 第2回都道府県介護予防担当者・アドバイザー合同会議  
(2015年3月5日(木)開催予定)

- 次回は、第3回アドバイザー合同会議の様子をご紹介予定です。

### 【編集後記】

いよいよ来週第3回アドバイザー合同会議が開催されます。モデル事業が始まり半年近く経ちましたが、参加府県、市町村の皆様におかれましては、それぞれのお立場で感じられる課題が明確になってきた時期かと思えます。是非その思いをアドバイザー会議で共有していただければと思います。

地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業事務局（株式会社三菱総合研究所）

担当：江沼、川邊、八巻

TEL：03-6705-6131（平日9：30～12：00、13：00～17：30）

E-mail：yobou2014@mri.co.jp

# かわら版

## 地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業 ワークシート

■ 都道府県名

島根県

■ 市町村名

吉賀町

■ 担当部局課名

保健福祉課

# I 地域診断

「I 地域診断」では必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。

1. と4. は戦略策定前に、2. と3. は年間を通して地域を見る視点としてご活用下さい。

## 1. 既存データの整理



「見える化」システム等を用いて、全国や都道府県との比較や、経年変化も見てみましょう。

1-1. 既存データの整理		(時点)	(範囲※1)	見える化※2で把握できるデータ	
高齢者人口	2,699	人	H26.6.1	町全体	○
内) 後期高齢者人口	1,633	人	H26.6.1	町全体	○
将来推計人口		人			○
高齢化率	40.78	%	H26.6.1	町全体	○
健康寿命		歳			
要介護認定者数	579	人	H26.6.1	被保険者の内	○
内) 新規認定者数		人			
認定率	21.78	%	H26.6.1	被保険者の内	○
第1号被保険者1人当たり保険給付月額		円			○
第1号保険料月額	4,800	円			○
健診受診率	40	%		H25度特定健診	
○○○					
○○○					
○○○					

※1：市町村全体の数値か、日常生活圏域の数値かなど、データの範囲について記入して下さい。

※2：地域包括ケア「見える化」システム (URL : <http://mieruka.mhlw.go.jp/>) については、各市町村の介護予防主管課へID・パスワードを付与しています。

見つからない場合は、ヘルプデスク (mieruka-help@ncsx.co.jp) に問い合わせして下さい。

## 1-2. 介護予防に資する住民運営の通いの場の展開状況※3

通いの場の箇所数	開催頻度	体操の実施									
		毎回実施		不定期に実施		未実施		把握していない	計		
	週1回以上		箇所		箇所		箇所		箇所	0	箇所
	月2回以上4回未満		箇所		箇所		箇所		箇所	0	箇所
	月1回以上2回未満		箇所		箇所		箇所	34	箇所	34	箇所
	把握していない		箇所		箇所		箇所		箇所	0	箇所
	計	0	箇所	0	箇所	0	箇所	0	箇所	34	箇所

参加者実人数	男性		女性		計	
	65歳以上75歳未満		人		人	
75歳以上		人		人		人
計	0	人	0	人	0	人

※3：H26年2月に情報提供しました、介護予防事業実施状況調査（平成25年度実施分）の特別調査の内容です。

データを整理した結果、把握できた地域の特性について記入して下さい。

・把握できていないものが多いので、今後把握していく必要がある。



## 2. 地域資源の整理（人・組織）



日々の地区活動において住民の方と関わる時にこれらの視点を持って関わり、関係性を築きながら把握していきましょう。

2. 地域資源の整理 (視点の例)		
自治会の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中でどのような活動を展開しているのか</li> <li>自治会の役員からみた困りごと</li> <li>役所内の自治会担当職員が考える課題</li> <li>地域の裏事情をよく知っている人は誰か</li> </ul>	自治会数 51(蔵木8、六日市12、七日市13、朝倉7、柿木11) 自治会活動:運動会、ソフトボール大会、敬老会、清掃活動など <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進み、運動会等の地区行事の運営が難しくなっている。</li> <li>人口が少ないため、役がすぐに回ってくる。</li> <li>旧六日市町では自治会が無く、町村合併後にできた。そのため、自治会としての意識が低い。</li> </ul>
民生委員の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中でどのような活動を展開しているのか</li> <li>民生委員からみた困りごと</li> <li>民生委員事務局担当者が考える課題</li> <li>民生委員の中のキーパーソンは誰か</li> </ul>	民児協委員数 40人(民生委員37人、児童委員3人) 活動内容:担当地区の見守り、訪問、相談活動、研修会、定例会、事例検討会など <ul style="list-style-type: none"> <li>地区にどんな人がいるのかわからない。(新委員の悩み)</li> <li>民委1人当たりの担当エリアが広い(特に旧六日市町エリア)。</li> <li>認知症、独居等、介入が難しいケースもある。</li> </ul>
老人クラブの活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動参加状況(加入者数、加入率等)</li> <li>活動内容</li> <li>老人クラブ役員からみた困りごと</li> <li>老人クラブ事務局担当者が考える課題</li> </ul>	クラブ数 24、加入者数 766人(六日市457人、柿木309人) H26.3.31時点の加入率 23.4% 活動内容:グランドゴルフ大会、ペタンク大会、シニア体力測定、演芸会、会報の発行、役員会等(生きがい、健康づくりに寄与し、住民同士の支えあい活動の中核組織として活動) <ul style="list-style-type: none"> <li>加入者の高齢化、新規会員の不足</li> </ul>
社会福祉協議会の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中でどのような活動を展開しているのか</li> <li>社協関係者からみた地域づくり関係の困りごと</li> <li>社協関係者の中の地域づくり関係のキーパーソンは誰か</li> </ul>	活動内容:地区サロン、旗揚げ運動、シルバー人材センター、ボランティアセンター、ケアマネセンター、地域包括支援センター、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、認知症グループホーム、介護予防教室の受託(地域包括支援センター)等 <ul style="list-style-type: none"> <li>地区サロン参加者の固定化、男性参加者が少ない。</li> <li>地区サロンのマンネリ化、毎回の内容決めに困っている。</li> </ul>
ボランティア(団体・個人)の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存事業の中でどのようなボランティアを育成しているか</li> <li>育成したボランティアの活動状況</li> </ul>	配食サービス(調理ボランティア、配食ボランティア)、草刈等の生活支援ボランティア H26.春 シルバー人材センター立ち上げ ボランティア育成:サロンリーダー研修等 地区サロンは、全34ヶ所。月に1回の頻度で活動中。
NPO等地域で活動している団体の活動状況		よしかの里(障がい者生活支援センター運営等) エコビレッジかきのきむら(柿木村の活性化等)
社会教育(生涯学習や生涯スポーツ等)関係の活動状況		生涯学習:5つの公民館を拠点に、各種活動を展開中 生涯スポーツ:体育協会主催のファミリーバドミントン大会等
その他		

地域資源(人・組織)を整理した結果について自由に記入して下さい。

- それぞれの組織が、それぞれ活発に活動しているが、共通の悩みとして、高齢化や人口減少により、活動のしにくさや困難さを感じている。
- 社会資源や人材はそう多くはない。既存の組織や資源と連携を取りながら、共に活動していくことが望ましい。

### 3. 地域資源の整理（場所・移動手段）



高齢者が集える場所として、どのようなところが考え得るか。

3. 地域資源の整理（場所・移動手段） （視点の例）	
自治会館、公民館などの住民が利用できる建物の位置 （マンションのコミュニティールームや、空家、空き店舗、公園等）	公民館5カ所、集会所54カ所、自治会館5カ所、基幹集落センター2カ所、林業総合センター1カ所、ふれあい会館 運動公園2カ所、温泉施設2カ所 福祉センター、保健センター、授産施設
自治会館や 公民館の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用状況</li> <li>空き状況</li> <li>利用料金（冷暖房費含め）</li> <li>鍵の管理方法</li> <li>利用条件</li> </ul> 自治会館・集会所の利用料：28,580円（指定管理者が定める） 公民館（蔵木、朝倉、七日市）利用料： 8:00～17:00 集会所990円、その他500円 17:00～22:00 集会所1,970円、その他990円
公的な老人施設の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況</li> <li>行事や教室の開催内容</li> <li>施設職員が考える課題</li> </ul> デイサービスセンター 3カ所 （介護度が軽い方は、入浴目的での利用の方も多 い） 特別養護老人ホーム 2カ所 養護老人ホーム 1カ所 認知症高齢者グループホーム 1カ所
その他活用出来そうな施設の状況	旧高尻保育所、平成館跡地、水源会館、七日市バス停待合室
コミュニティバス等の移動手段の状況	石見交通バス（広島-益田間）、岩国市営バス（六日市-錦町 駅間）、六日市交通バス、柿木スクールバス、タクシー2社

地域資源（場所・移動手段）を整理した結果について自由に記入して下さい。

- ・利用できる施設は比較的多いが、使用料が必要な場所も多い。施設によっては、「地区住民が使用する場合には無料」「行政が依頼したものは無料」等の決め事がある。
- ・公共交通機関はバスしかなく、便も多くはない。車を持たない高齢者は、移動手段に困っている。遠方への移動は、送迎が無いと困難な方も多い。

#### 4. 行政課題の整理



4. 行政課題の整理	
第6期介護保険事業計画等、各自治体の計画の中で介護予防や地域づくりがどのように記載されているか	
これまでの介護予防や地域づくりの取組み状況、関連事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次予防事業：7種の教室を実施中（運動関連を中心に実施中）</li> <li>・二次予防事業：2種の教室を実施中</li> <li>・H26度より、認知症予防にも重点的に取り組み中。認知症予防のための自主グループ育成に、10月頃より取り組む予定。</li> </ul>
担当者として考える地域づくりの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室に参加する方は増加傾向だが、受け身的。行政側も、これまで住民主体の組織づくりや人材育成の面の意識が低かった。意識改革が必要。</li> <li>・地区活動の核となる人材が不足しているため、育成が必要。</li> </ul>
他部門（衛生部門等）の担当者が考える地域づくりの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・核の一つとなる公民館の組織体制が弱い。</li> <li>・地区活動の担い手不足（リーダーの高齢化も進んでいる）</li> <li>・住民とともに地域の課題を考え、共有していくことが必要。</li> </ul>
地域包括支援センターの活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中でどのような活動を展開しているか（通いの場、見守り体制等）</li> <li>・住民からの相談内容、相談件数の推移</li> <li>・地域包括支援センター職員が考える</li> </ul>
地域ケア会議等個別事例の検討の中から浮かび上がった地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26.10月の発足に向け、準備中。</li> </ul>
高齢者向けアンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5期介護予防事業計画中は、毎年日常生活圏域ニーズ調査を実施。今年度は、10月からの実施に向け準備中。</li> <li>・H25度 二次予防対象者について、他の項目は減少傾向だが、うつ傾向の方は増加がみられた。</li> </ul>

行政課題を整理した結果、把握できた地域全体の課題・ニーズについて自由に記入して下さい。

- ・健康や介護予防に関するデータや課題について、住民とともに共有する場を持ってきていない。ともに考え、行動していくために、一緒に課題の整理や今後に向けて話し合っていく場を持つことが必要。
- ・マンパワーの不足（行政、社協、地域のリーダーのいずれも）。今後の活動を担っていく人材の育成が必要。
- ・教室に参加していない人、ニーズ調査の返送が無い方等、より支援が必要な方を把握できていない可能性がある。

## Ⅱ 戦略策定

「Ⅰ 地域診断」で整理した情報を基に、住民運営の通いの場の立ち上げについて具体的な戦略を策定しましょう。  
「Ⅱ 戦略策定」は本モデル事業の報告書に掲載予定です。都道府県研修・現地支援終了後サイボウズへの掲載をお願いします。

### 1. 戦略の全体像

**Point** まずは全体像を整理しましょう。

ビジョン1 ※長期的な視点で、どのような地域を目指すのか整理する。

- 地域住民のニーズに合っているか
- 地域の行政課題に合っているか

・介護予防や認知症予防に対する高齢者の関心は高まっている。より積極的に介護予防・認知症予防に取り組む住民の増加を目指し、新規要介護認定者の増加抑制、要介護状態の悪化予防、健康寿命の延伸を図る。  
・歩いて行ける距離で、気安い仲間と、気軽に集える住民運営の場を充実させる。

ビジョン2 ※ビジョン1を踏まえ、地域でどのように通いの場を充実していくか整理する。

- ビジョン1に向かっている内容か
- 第6期介護保険事業計画と整合がはかれているか
- 市町村全域で、高齢者が容易に通える範囲に通いの場を展開する事を見据えているか
- 前期高齢者のみならず、後期高齢者や閉じこもり等何らかの支援を要する者の参加を促す事を見据えているか

H26年度 (モデル事業)	●モデル地区において、自主グループ(1カ所)の立ち上げを目指す。 ・モデル地区を決定し、活動を開始する。 ・モデル地区以外のサロン等、高齢者が多数集まる場において、今後の介護保険制度の流れや集いの場の必要性等について説明・意見交換会を開催し、関係職員および住民の意識を高めていく。
H27年度	●モデル事業での成果や課題を活かし、町全域への普及を目指す取組み ・サロンリーダーへの研修 ・サポーター養成研修 ・実施個所の増加を目指す(目標3~5カ所程度)
H28年度	●町全域への普及を目指す取組み ・サポーター養成研修 ・実施サロン同士の活動交流会 ・実施個所の増加を目指す(目標7~10カ所程度)
最終目標	●町全域への活動の波及(実施個所の増加を目指す:目標12~15カ所程度) ●H29年4月~新しい総合事業のスタート、高齢者の集いの場のひとつとして機能(元気高齢者、虚弱な高齢者等を分け隔てることなく、気軽に集える場として活動を展開)

モデル事業の概要 ※ビジョン1・2を踏まえ、今年度実施する内容について整理する。

- 本年度は何を重視するか
  - 具体的に何を行うのか(新規に行うことは何か、既存資源・事業の活用をするのか等)
- ※枠内におさまる程度にまとめ、詳細は「2. 住民のやりたい!を引き出すための戦略策定」に記載する。

・モデル地区において、住民運営の集いの場の重要性について理解していただき、いきいき百歳体操に取り組む住民グループを立ち上げる。(目標1カ所)  
・グループ立ち上げを通じて、関係職員がノウハウを学ぶとともに、住民の介護予防や自主運営のグループの重要性等についての意識を高める。  
・高齢者が集まる場において、いきいき百歳体操のPRを行う。  
・新しい総合事業への移行を見据え、デイサービスセンターにおいても、いきいき百歳体操を取り入れる方向で検討を進める。

## 2. 住民のやりたい！を引き出すための戦略策定

**Point** モデル事業で実施する具体的な内容を整理しましょう。

2-1. 住民のやりたい！を引き出すための戦略策定 (視点の例)		
行政内での意思統一を図る	<input type="checkbox"/> 行政内で誰を(課、職種等)を巻き込むか	保健福祉課(保健師、介護保険担当等の事務職) 社会福祉協議会(在宅福祉部、地域包括支援センター等)
住民に対して伝える情報の整理	<input type="checkbox"/> 伝える情報は何か ・地域の現状 ・介護予防の必要性 <input type="checkbox"/> わかりやすく伝えるためにどのような工夫をするか	・吉賀町の現状(人口、高齢者数、今後の人口推移、要介護状態になった理由等) ・介護保険制度改正の流れ、住民パワーの重要性 ・週に1回集い、いきいき百歳体操に取り組むことで得られる運動の効果 ・パワーポイント等での資料作成、高知市さん作成のDVDの活用
普及啓発の計画	<input type="checkbox"/> いつ <input type="checkbox"/> 誰に、どのような場で <input type="checkbox"/> どのような方法で	・9月26日 モデル地区候補のサロンリーダーへの打診 ・10月初旬 モデル地区候補の自治会長への打診 ・10月20日 モデル地区候補のサロンでの説明会 ・11月頃 事業開始
その他		

2-2. 支援体制(共通のルール)の整理 (視点の例)		
共通ルール・継続的なフォローの方法	<input type="checkbox"/> 行政として支援する内容は何か <input type="checkbox"/> 支援する側の共通ルールとして何を設定するか ・立ち上げ支援の回数 ・誰が支援するのか ・名簿管理 等	・初回介入時および3カ月後の効果測定(ビデオ撮影も実施) ・初回4回目までは、役場保健師や包括職員が入り、共に実施。 ・5回目からは、基本的には住民主体での実施とする。 ・鍾は、平成26年度中は貸出。その後については今後検討。 ・会場使用料が発生する場合は、参加者負担または自治会へ相談してみる。
事業評価の方法	<input type="checkbox"/> 評価方法 ・体力測定等	・体力測定(握力、開眼片足立ち、ファンクショナルリーチ、座位体前屈、TUG、2分間足踏み、椅子からの立ち上がり等) ・主観的評価 ・E-SAS など
その他		

2-3. 通いの場充実計画 (視点の例)		
モデルとなる通いの場の位置づけ	↓ Yesの場合 <input type="checkbox"/> モデルとなる通いの場はどこにするか <input type="checkbox"/> モデルとなる通いの場で何をを行うか <input type="checkbox"/> モデルとなる通いの場を今後の展開にどう活かすのか	・実施個所は、現在調整中(H26. 9. 26現在) ・実施内容:いきいき百歳体操 ・新しい総合事業への移行に向け、住民運営の集いの場の充実を目指す。今年度の取組を通じての成果と課題を活かし、平成27年度以降、町全域で同様の活動を行う集いの場の普及を目指す。
その他		

# かわら版

## 地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業 ワークシート

■ 都道府県名

広島県

■ 市町村名

北広島町

■ 担当部局課名

保健課

# I 地域診断

「I 地域診断」では必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。

1. と4. は戦略策定前に、2. と3. は年間を通して地域を見る視点としてご活用下さい。

## 1. 既存データの整理



「見える化」システム等を用いて、全国や都道府県との比較や、経年変化も見てみましょう。

1-1. 既存データの整理		(時点)	(範囲※1)	見える化※2で把握できるデータ	
高齢者人口	19,685	人	H26年3月末	北広島町全体	○
内) 後期高齢者人口	4,276	人	H26年3月末	北広島町全体	○
将来推計人口		人		北広島町全体	○
高齢化率	35.5	%	H26年3月末	北広島町全体	○
健康寿命	男性77.22 女性83.40	歳	H22年度	北広島町全体	
要介護認定者数	1,617	人	H26年4月末	北広島町全体	○
内) 新規認定者数	421	人	H25年度	北広島町全体	
認定率	23.2	%	H26年4月末	北広島町全体	○
第1号被保険者1人当たり保険給付月額	29,577	円		北広島町全体	○
第1号保険料月額	5,580	円	第5期事業計画	北広島町全体	○
健診受診率	42.3	%	H25年度特定健診	北広島町全体	
介護保険給付費	24億8千万	円	H25年度	北広島町全体	
基本チェックリスト実施者	41.1	%	H25年度	北広島町全体	
二次予防事業参加者	4.8	%	H25年度	北広島町全体	

※1：市町村全体の数値か、日常生活圏域の数値かなど、データの範囲について記入して下さい。

※2：地域包括ケア「見える化」システム (URL : <http://mieruka.mhlw.go.jp/>) については、各市町村の介護予防主管課へID・パスワードを付与しています。

見つからない場合は、ヘルプデスク (mieruka-help@ncsx.co.jp) に問い合わせして下さい。

## 1-2. 介護予防に資する住民運営の通いの場の展開状況※3

通いの場の箇所数	開催頻度	体操の実施									
		毎回実施		不定期に実施		未実施		把握していない		計	
	週1回以上	10	箇所		箇所		箇所		箇所	10	箇所
	月2回以上4回未満	1	箇所		箇所		箇所		箇所	1	箇所
	月1回以上2回未満	3	箇所		箇所		箇所		箇所	3	箇所
	把握していない	0	箇所	119	箇所		箇所		箇所	119	箇所
	計	14	箇所	119	箇所	0	箇所	0	箇所	133	箇所

参加者実人数	男性		女性		計	
	65歳以上75歳未満	2	人	64	人	66
75歳以上	3	人	66	人	69	人
計	5	人	130	人	135	人

※3：H26年2月に情報提供しました、介護予防事業実施状況調査（平成25年度実施分）の特別調査の内容です。

データを整理した結果、把握できた地域の特性について記入して下さい。

・人口は減少するが、75歳以上の後期高齢者が今後増加すると予測される。・高齢化率は、地域によっては40%を超している。・要介護認定率は年々微増。認定者は、9割以上が75歳以上である。・要介護2以上が6割である。・介護保険給付費は年々増加しH18年度からでは、5億2千万円増加。保険料も第3期事業計画時に比べ、1,200円増加。・二次予防事業参加者は高齢者人口の約5%であり二次予防事業対象者の事業参加率も高い。・健康寿命は男性が県内でも低位である。

## 2. 地域資源の整理（人・組織）



日々の地区活動において住民の方と関わる時にこれらの視点を持って関わり、関係性を築きながら把握していきましょう。

2. 地域資源の整理 (視点の例)		
自治会の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中でどのような活動を展開しているのか</li> <li>・自治会の役員からみた困りごと</li> <li>・役所内の自治会担当職員が考える課題</li> <li>・地域の裏事情をよく知っている人は誰か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧町単位の地域づくり協議会(自治振興会)が主体となり、地域特性に併せた活動を行っている。</li> <li>・支所機能の強化に併せ、地域の活性化のサポート役として、4地域に集落支援員を配置し、集落の維持活性化に取り組んでいる。</li> </ul>
民生委員の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中でどのような活動を展開しているのか</li> <li>・民生委員からみた困りごと</li> <li>・民生委員事務局担当者が考える課題</li> <li>・民生委員の中のキーパーソンは誰か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし巡回相談員(民生委員)が、週1回程度、地域の一人暮らし及び高齢者世帯の訪問をしている。</li> <li>・独居、夫婦二人暮らしが増えている。家族が遠方のため連絡が取りにくい人が増えている。認知症があり独居の生活をしている人の支援で悩むことが多くなっている。</li> </ul>
老人クラブの活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動参加状況（加入者数、加入率等）</li> <li>・活動内容</li> <li>・老人クラブ役員からみた困りごと</li> <li>・老人クラブ事務局担当者が考える課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度クラブ会員は、2,732人であるが、新規加入者が減っている。会員の高齢化が進み、クラブ活動が維持できなくなりつつある。</li> <li>・清掃活動やつどいなど、定例的に活動している。</li> </ul>
社会福祉協議会の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中でどのような活動を展開しているのか</li> <li>・社協関係者からみた地域づくり関係の困りごと</li> <li>・社協関係者の中の地域づくり関係のキーパーソンは誰か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年8月に社協の組織編成をし「よろず相談室」を設置し、コミュニティソーシャルワーカーを配置し互助の推進を図る。キーパーソンは、コミュニティソーシャルワーカーとなる。</li> </ul>
ボランティア（団体・個人）の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存事業の中でどのようなボランティアを育成しているか</li> <li>・育成したボランティアの活動状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の確保のために、配食ボランティアが、週1回～3回の弁当を低価格で配食している。延べ12,167食の配食を調理ボランティア、配達ボランティアが支えている。・お元気サポーター養成講座を受講した人が、ボランティアとして、介護予防教室に参加している。</li> </ul>
NPO等地域で活動している団体の活動状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・西中国山地自然史研究会が、生物多様性の保全に取り組んでいる。</li> </ul>
社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係の活動状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型スポーツクラブを中心にからだづくり、運動普及に取り組んでいる。</li> <li>・H26年10月に温水プールが開所となるので、プールを活用した介護予防・健康づくりを推進していく予定。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸北支所では、支所提案型事業として、薪を活かした豊かな暮らしを提案する「薪活」に力を入れ地域と一緒に取り組んでいる。</li> </ul>

地域資源（人・組織）を整理した結果について自由に記入して下さい。

・地域の維持・活性化に向け、各課がそれぞれのカラーを出し、地域を巻き込み、協働で取り組んでいる。  
 ・福祉課が主体となり、H25年度に芸北地域で区長からの聞き取り調査を実施し、26年度は、地域支え合い活動のモデル集落にコーディネーターを配置し、集落の力の再発見と集落の魅力を発信する取り組みを実施中。



### 3. 地域資源の整理（場所・移動手段）



高齢者が集える場所として、どのようなところが考え得るか。

3. 地域資源の整理（場所・移動手段） （視点の例）	
自治会館、公民館などの住民が利用できる建物の位置 （マンションのコミュニティールームや、空家、空き店舗、公園等）	集会所やコミュニティセンターが整備されている。地域住民の管理となっている。・サロンやミニディや地域の集まりは、歩いて行ける集会所で行われている。・敬老会等地域の大きな行事は、小学校区程度にある比較的大きな施設（センター等）で行われている。
自治会館や 公民館の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用状況</li> <li>・空き状況</li> <li>・利用料金（冷暖房費含め）</li> <li>・鍵の管理方法</li> <li>・利用条件</li> </ul> ・公民館等は指定管理もあり、条例により施設利用料金が決まっている。・自治会館等の活用は地域によって違うが、地域の集会、催しで利用している。
公的な老人施設の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況</li> <li>・行事や教室の開催内容</li> <li>・施設職員が考える課題</li> </ul>
その他活用出来そうな施設の状況	・空き家はあるが、交通の便を考えると、気軽には利用はできない。
コミュニティバス等の移動手段の状況	・デマンドバス（ホープバス、ホープタクシー）の利用が可能であるが、旧町単位での乗り継ぎや便数の面で地域によっては不便である。

地域資源（場所・移動手段）を整理した結果について自由に記入して下さい。

- ・地域特性とし、近所が遠く、交通の便も悪い。
- ・地域によっては、高速バスは、1時間に1本は市内へ行けるため便利である。
- ・バスの利用には不便も感じるため、高齢になっても自家用車を手放さない人が多い。

#### 4. 行政課題の整理



4. 行政課題の整理	
第6期介護保険事業計画等、各自治体の計画の中で介護予防や地域づくりがどのように記載されているか	・長期総合計画等では地域の維持、活性化が課題であり、企画課等各課で取り組んでいる。・介護保険給付費、医療費が増加していることや人口の減少と高齢化から、高齢になっても元気で生活できるから作り、お互いに支えあえる地域づくりが急務と明記している。
これまでの介護予防や地域づくりの取組み状況、関連事業の実施状況	・一次・二次予防事業の展開で、介護保険の新規申請時に要支援の人は県平均に比べ低率であった。・健康づくり事業や介護予防事業を行政主体で実施しているが、住民主体での自主的な集い・自主組織にはつながらないのが現状である。
担当者として考える地域づくりの課題	・行政が声をかける間は、教室が継続するが、手を放すと消えてしまう。「おんぶにだっこ」状態に行政も住民も流れていた。・介護保険サービスのすき間を埋める見守りや声掛けが必要となっている。
他部門（衛生部門等）の担当者が考える地域づくりの課題	・元気づくり推進事業を25年度から展開しているが、今後継続した事業となり住民主体の取り組みになるようにと思う。
地域包括支援センターの活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中でどのような活動を展開しているか（通いの場、見守り体制等）</li> <li>・住民からの相談内容、相談件数の推移</li> <li>・地域包括支援センター職員が考える</li> </ul>
地域ケア会議等個別事例の検討の中から浮かび上がった地域の課題	・介護サービス利用だけでは、地域での在宅生活は難しい。サービスの隙間を埋める支援が必要である。・独居の人の見守りにも限界がある。家族が疎遠な人が増え、地域の負担は増えている。・冬期の雪の問題。除雪の費用、サービス利用の制限・支えるマンパワーの不足。
高齢者向けアンケート等の結果	・「可能な限り、自宅で暮らしたいが、常に介護が必要な場合には、施設等に入所することもやむをえない」と回答した人が、5割となっている。

行政課題を整理した結果、把握できた地域全体の課題・ニーズについて自由に記入して下さい。

- ・福祉課が主体となり、今年度は、新聞販売、郵便局等と協定を結び、地域の見守りネットを整備する予定。
- ・銀行、JA、ヤクルトと言った高齢者に直接接する機関との連携を強くすることが必要。
- ・サービスの隙間を埋める地域の見守りや互助が必要。・国民年金のみの生活で、経済的に苦しい高齢者も多い。
- ・70代は地域では若者であり、地域の主たる担い手となっている。

## Ⅱ 戦略策定

「Ⅰ 地域診断」で整理した情報を基に、住民運営の通いの場の立ち上げについて具体的な戦略を策定しましょう。  
 「Ⅱ 戦略策定」は本モデル事業の報告書に掲載予定です。都道府県研修・現地支援終了後サイボウズへの掲載をお願いします。

### 1. 戦略の全体像

**Point** まずは全体像を整理しましょう。





ビジョン1 ※長期的な視点で、どのような地域を目指すのか整理する。

- 地域住民のニーズに合っているか
- 地域の行政課題に合っているか

北広島町の人口は年々減少しており、高齢者を支える世代も減少している。また、健康寿命は県平均より低く、介護保険認定率は、22.8%を超える状況にある。行政主体の取り組みだけでは、今後、団塊の世代が75歳に達する時には介護給付費や保険料の上昇が危惧されるとともに、地域での対応が困難となり自助力も限界となる。そのため、住民自らが主体的に、地域の中で、積極的、かつ継続的に健康づくりに取り組む共助力を高めていくことが重要であり、そのための体制づくりが急務となっている。そこで、住民自らが、主体的に健康づくりを実践できる仕組みづくりを行い、住民の元気づくりと、併せて地域コミュニティの活性化を目指す。

ビジョン2 ※ビジョン1を踏まえ、地域でどのように通いの場を充実していくか整理する。

- ビジョン1に向かっている内容か
- 第6期介護保険事業計画と整合がはかれているか
- 市町村全域で、高齢者が容易に通える範囲に通いの場を展開する事を見据えているか
- 前期高齢者のみならず、後期高齢者や閉じこもり等何らかの支援を要する者の参加を促す事を見据えているか

H26年度 (モデル事業)	 <p>○現在事業展開している元気推進事業の評価方法を検討し住民主体で継続した通いの場になるように支援する。・評価方法として、①現在参加している人の医療費分析データーをとる。②事前事後の健康観等のアンケート分析③町内の通いの場(体操を実施している場)を地図におとす。④町内の集会所・自治会館を把握する。④途中で参加しなくなった人の理由を把握する。                  ○歩いて行ける所での実施に向け地域住民に介護予防の大切さを伝える。・ケーブルテレビを活用し町民に周知する。</p>
H27年度	 <p>○住民自身から「やりたい」と手を挙げてもらったところで通いの場をつくる。前期6か所、後期6か所。                  ○事業の評価を行い、住民へ伝える。評価として①介護保険新規申請の理由の把握。②医療費分析、健診受診結果等継続したデーターを把握する。                  ○元気リーダーのフォロー体制を強化し通いの場が継続できるよう支援する。</p>
H28年度	 <p>○住民自身から「やりたい」と手を挙げてもらったところで通いの場をつくる。前期6か所、後期6か所。                  ○事業の評価を行い、住民へ伝える。評価として①介護保険新規申請の理由の把握。②医療費分析、健診受診結果等継続したデーターを把握する。                  ○元気リーダーのフォロー体制を強化し通いの場が継続できるよう支援する。</p>
最終目標	 <p>○H29年度に、元気づくり事業実施の通いの場を町内で50か所。参加率(40歳上)を人口の1割に。                  ○継続した事業評価を行い、地域住民に伝える。</p>

モデル事業の概要 ※ビジョン1・2を踏まえ、今年度実施する内容について整理する。

- 本年度は何を重視するか
  - 具体的に何を行うのか(新規に行うことは何か、既存資源・事業の活用をするのか等)
- ※枠内におさまる程度にまとめ、詳細は「2. 住民のやりたい！を引き出すための戦略策定」に記載する。

・地域住民に介護予防、健康づくりにについて周知し、元気づくり事業の効果等を伝える。なぜ、必要か、通いの場での運動の必要性などを伝える。  
 ・元気づくり事業の評価を行う。医療費、健診結果、介護保険申請結果等から客観的なデーターを把握する。  
 ・地域の集会所、自治会館の場所、数を把握し、自主的な通いの場を地図に落とす(サロン、グランドゴルフ、ゲートボール、自彊術等)

## 2. 住民のやりたい！を引き出すための戦略策定



モデル事業で実施する具体的な内容を整理しましょう。

2-1. 住民のやりたい！を引き出すための戦略策定 (視点の例)		
行政内での意思統一を図る	<input type="checkbox"/> 行政内で誰を(課、職種等)を巻き込むか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健課 健康増進係 保健師、地域介護係 保健師</li> <li>・福祉課 福祉係 (地域支えあい活動の担当者)</li> <li>・企画課 (集落支援員の担当者)</li> </ul>
住民に対して伝える情報の整理	<input type="checkbox"/> 伝える情報は何か <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状</li> <li>・介護予防の必要性</li> </ul> <input type="checkbox"/> わかりやすく伝えるためにどのような工夫をするか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状、介護保険の現状、介護予防の必要性</li> <li>・元気づくり推進事業の効果</li> </ul> <input type="checkbox"/> ケーブルテレビで実際に行っている元気づくり推進事業を取材してもらい、放映する。 <input type="checkbox"/> データー等の数値を入れた資料を作成し、「一目見て」わかる納得できる伝え方を工夫する。
普及啓発の計画	<input type="checkbox"/> いつ <input type="checkbox"/> 誰に、どのような場で <input type="checkbox"/> どのような方法で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のサロン、女性会、高齢者学級等で介護予防の大切さを伝える。(不定期)</li> <li>・きたひろネット放映(ケーブルテレビ)(9月以降) 9月1日元気リーダー研修会、9月～地域の元気づくり推進事業を行っている集会所の取材と放映</li> </ul>
その他	/	

2-2. 支援体制(共通のルール)の整理 (視点の例)		
共通ルール・継続的なフォローの方法	<input type="checkbox"/> 行政として支援する内容は何か <input type="checkbox"/> 支援する側の共通ルールとして何を設定するか <ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上げ支援の回数</li> <li>・誰が支援するのか</li> <li>・名簿管理 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託しているどんぐり財団(町内の総合型スポーツクラブ)と共同事業を展開するため、どんぐり財団との情報共有と意思の相互伝達を継続する。・行政は、参加者の状況について適宜報告を受け中断者へのフォローを行う。</li> <li>○H29年度末までの目標数値を設定する。月1回程度方向性の確認や現状についての報告会を開催する。・参加者名簿は委託先が管理するが、毎月実績報告と合わせて参加者を把握する。</li> </ul>
事業評価の方法	<input type="checkbox"/> 評価方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力測定等</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 事前・事後のアンケート: 主体的健康観、地域の活性化観等 <input type="checkbox"/> 客観的データー: 医療費、健診結果、介護保険新規申請の状況
その他	/	

2-3. 通いの場充実計画 (視点の例)		
モデルとなる通いの場の位置づけ	↓ Yesの場合 <input type="checkbox"/> モデルとなる通いの場はどこにするか <input type="checkbox"/> モデルとなる通いの場で何を行うか <input type="checkbox"/> モデルとなる通いの場を今後の展開にどう活かすのか	<input type="checkbox"/> モデル事業で、通いの場の評価について検討する。通いの場を継続した効果、継続していく要因等を見える化する。
その他	/	